

講義科目名称	英語コミュニケーション研究 IV	副題	Communicative English Pronunciation
英文科目名称	English Communication Studies IV		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
小笠原 奈保美			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員等による授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等
	授業で使用する言語
	<input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他
	アクティブラーニング
	<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている

授業の内容 (概要) この授業では、英語音声学 (特に調音音声学)・音韻論の基本的概念について学んでいく。具体的には、英語の子音、母音、調音結合、音節構造、リズム・ストレス・イントネーションなどの韻律構造について学ぶ。また、英語以外のさまざまな言語の音体系と英語の音体系を比較することで、各言語の母語話者にとって難しいと予想される英語の発音について、比較音声学の観点から考えていく。授業形式は、反転授業の形式を取り、自宅で予習してきた新たな学習内容を、課題シートなども利用しながら、受講者相互で議論を行ったり、教員を含めた議論を行うなど、双方向あるいは多方向に行われる議論を通して内容を深く理解していく。

授業の目的 このコースは、英語音声学・音韻論の専門的な知識の修得を主な目的とする。これらの知識を応用して、受講者の英語コミュニケーションや英語教授の実践に役立ててもらいたい。国際コミュニケーション研究科の定めるDP1とDP3の達成に貢献している。

到達目標 反転授業や受講者相互の議論や教員も含めた議論を通して、英語音声学・音韻論について深く学び、専門知識を身につけることができる。また、レポートやクラス内での発表を通して、論理的思考力や課題を見つけ出す力をつけることができる。

授業計画	第1回	Introduction	この授業では、英語音声学 (特に調音音声学)・音韻論の基本的概念について学んでいく。具体的には、英語の子音、母音、調音結合、音節構造、リズム・ストレス・イントネーションなどの韻律構造について学ぶ。また、英語以外のさまざまな言語の音体系と英語の音体系を比較することで、各言語の母語話者にとって難しいと予想される英語の発音について、比較音声学の観点から考えていく。授業形式は、反転授業の形式を取り、自宅で予習してきた新たな学習内容を、課題シートなども利用しながら、受講者相互で議論を行ったり、教員を含めた議論を行うなど、双方向あるいは多方向に行われる議論を通して内容を深く理解していく。
	第2回	Ch 10: Pronunciation Syllabus Design: A Question of Focus	話者一人一人の英語発音の診断の仕方を考える。テキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第3回	Analyzing Speech 1	音響分析ソフトPraatを使いながら、受講生が自身の英語発音を録音し、音声分析を行う。前回の授業で考えたアセスメントの方法を使いながら、発音診断を行い、その結果をクラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第4回	Analyzing Speech 2	音響分析ソフトPraatを使いながら、受講生が自身の英語発音を録音し、音声分析を行う。今回は特に英語母音にフォーカスし、母音スペースの作り方と診断の仕方を学び、その結果をクラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第5回	Ch 9: A Communicative Approach to Pronunciation Teaching	英語発音の練習を目的としたクラス内アクティビティの種類や方法についてテキストの内容をまとめ、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や英語を使ったコミュニケーションの場面で役立つアクティビティを受講生が考える。テキストやアクティビティの発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第6回	Ch 11: Suprasegmentals in the Pronunciation Class: Setting Priorities	ストレス、イントネーション、調音結合、ポーズなどの韻律構造を練習するアクティビティについてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や英語を使ったコミュニケーションの場面で役立つアクティビティを受講生が考える。テキストやアクティビティの発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第7回	Ch 12: Pronunciation-Based Listening Exercises	リスニングスキルを使って英語発音を練習するアクティビティについてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や英語を使ったコミュニケーションの場面で役立つアクティビティを受講生が考える。テキストやアクティビティの発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第8回	Ch 13: Teaching Pronunciation: An Inventory of Techniques	個別の音を正確に発音するための練習や流暢に発音するための練習に役立つアクティビティについてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や英語を使ったコミュニケーションの場面で役立つアクティビティを受講生が考える。テキストやアクティビティの発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第9回	Ch 14: Developing Self-Correcting and Self-Monitoring Strategies	self-monitoringやself-correcting、フィードバックの与え方などについてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や英語を使ったコミュニケーションの場面で役立つテクニックを受講生が考える。テキストやテクニックの発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第10回	Ch 15: Developing Natural and Confident Speech: Drama Techniques in the Pronunciation Class	自然で自信を持った英語発音を練習するためのドラマテクニックを使ったアクティビティについてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や英語を使ったコミュニケーションの場面で役立つテクニックを受講生が考える。テキストやテクニックの発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第11回	Ch 16: Unintelligibility and the ESL Learner	ノンネイティブの話者の英語発音が聞き手に理解されない原因やその解決策についてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や英語を使ったコミュニケーションの場面で聞き手に理解される英語発音のあり方を受講生が考え、学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第12回	Practicum: Individual Sound Practice	英語の子音や母音などの個別の音を効率よく練習するためのアクティビティや課題を受講生が考え、クラス内で実践する。また、実際の教育現場で実践が可能な場合は、その成果や問題点をまとめ、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第13回	Practicum: English Prosody Practice	英語のストレス、母音弱体化、リズム、イントネーションなどの韻律にフォーカスし、効率よく練習するためのアクティビティや課題を受講生が考え、クラス内で実践する。また、実際の教育現場で実践が可能な場合は、その成果や問題点をまとめ、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第14回	Practicum: English Drama	ドラマテクニックを用いたアクティビティを受講生が考え、クラス内で実践する。また、実際の教育現場で実践が可能な場合は、その成果や問題点をまとめ、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第15回	Review	これまで学んだことについて学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)

テキスト	Peter Avery & Susan Ehrlich, 『Teaching American English Pronunciation』 Oxford Handbooks for Language Teachers, Oxford University Press. ISBN: 9780194328159
テキスト購入方法	各自で購入すること。
参考文献	Peter Ladefoged, 『A Course in Phonetics, 5th ed.』 Thomson Wadsworth. ISBN: 9781413020793, 『ビジュアル音声学』川原繁人著 三省堂 ISBN: 9784385365329
成績評価の方法	テキストのプレゼンテーション50%、Practicum 50%
教員への連絡方法	授業の前後の時間を利用する。または、email, Google Classroomを通して連絡する。
履修上の注意	英語で授業を行う。
授業外学修情報（予習復習）	事前学習：テキストの予定箇所、参考文献について、事前にしっかり読み込んでおく。 事後学習：授業で学んだことを復習し、理解を深める。 1学期の授業外学修時間：合計30時間（1回の授業にあたり合計約2時間の予習・復習）
学生へのメッセージ	毎時間、テキストで事前に指示されたところを読み込んでおく。